

南丹地域振興計画（中間案）の概要

※主な改正内容を抜粋しています。

1 地域の将来像（20年後に実現したい姿）

「来てよし・観てよし・住んでよし」交流人口・関係人口1,000万人超の賑わいと活気のある京都丹波

- 京都スタジアムを核に交流人口・関係人口が拡大し、賑わいが創出されている地域
- 食、自然・歴史文化、スポーツなどの京都丹波の強みを生かして、誰もが健康で生き生きと、安心・安全に暮らしている地域
- 「森の京都・京都丹波ライフスタイル」が浸透し、若者の定着が進んでいる地域

2 施策の基本方向

- ◆ 子育てしやすい京都丹波の観点を新たに章に加えるなど、現行の5章立ての柱を4章立ての柱に再構成

(1) 京都丹波の地域資源を生かした観光や移住・定住の推進による交流・活力のまちづくり

豊かな自然や伝統ある文化、京都スタジアムをはじめとするスポーツ資源を活用した賑わいの創出や周遊を促進するとともに、移住・定住の取組を推進

- ・ 京都スタジアムでのスポーツ観戦を入りに、川の駅・亀岡水辺公園等の新たな交流施設を取り込んだ周遊促進、スタジアム周辺の道路空間を活用した賑わい創出
- ・ 「eスポーツの聖地・京都」に向けた京都スタジアムへのeスポーツ大会誘致やeスポーツ関連人材の育成
- ・ 大学等との連携によるウェルネスプログラムの開発、同プログラムを活用した企業の健康経営支援等のウェルネスの先進モデルづくり
- ・ スポーツ・健康、フードテックなどの関連企業の集積や研究の促進、トップアスリートによる商品開発の実証の循環により、地域経済の発展やスポーツ・健康づくりに親しむ住民の拡大
- ・ 都市生活と田園生活がそれぞれ味わえる環境づくりを推進するとともに、地域の副業の情報発信、「おいしい食の応援隊」参加による農のある暮らし体験など多様なニーズに対応した移住・定住促進

(2) 人権が尊重され、子育てしやすく、誰もが希望を持って元気に暮らせる地域づくり

一人ひとりの人権が尊重されるとともに、京都丹波が子育てしやすい地域と実感できる取組、健康長寿の地域づくりを推進

- ・ 京都丹波子育て文化推進協議会による「WE ラブ赤ちゃんプロジェクト」の浸透や、子育て応援サポート「まもっぷ」、「きょうと子育て応援施設」の普及、利用拡大
- ・ 子どもたちが京都丹波の魅力である豊かな自然や伝統文化、スポーツを体感・体験する取組を推進し、地域全体での子どもの育ちを支援
- ・ 移住希望者向けイベントや京都スタジアムでのスポーツ観戦等の機会を活用した移住婚やスポ

ーツ婚など、出会いの場の創出

- ・丹波自然運動公園などの拠点機能を活かし、障害のある人もない人も共にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の創出

(3) 明日の京都丹波産業を担う人づくり

農林水産業も含め、企業や高等教育機関との産学公連携による人材育成やイノベーション促進の取組を推進

- ・管内の企業ネットワークと京都先端科学大学に設置される「オープンイノベーションセンター・亀岡」の連携による人材育成、「食」「農」産業のイノベーション促進
- ・企業や産業支援機関との連携により、農業経営体の積極的な経営展開や、中食・内食需要に対応した新商品開発等を支援
- ・林業大学校と大学・高校との連携強化やスマート林業を取り入れた授業による高度な人材育成と林業の担い手の地元雇用の促進

(4) 交流と安心・安全の基盤づくり

大規模災害への備えや感染症対策の徹底、持続可能な農林水産業の推進など、安心・安全の京都丹波づくり

- ・大規模盛土造成地の安全性把握や監視指導の強化
- ・洪水予報河川の水位や氾濫時浸水区域の予測機能の強化や桂川上流・由良川上流ブロックでの広域避難マニュアル作成
- ・子どもたちへの防災教育や木育・森林環境教育を通して、地域の自然環境や災害から自らを守ることを学ぶ取組の推進
- ・市町や医療機関、社会福祉施設等との連携を図り、感染の予防や拡大防止に向けた体制づくりの推進、医療機関の受診が困難な方に対する訪問診療やオンライン診療の促進
- ・環境負荷低減の農業やCO2吸収増進の森林整備、農業経営体の法人化や複数集落間営農の組織化による担い手対策、耕畜連携等の資源循環による持続可能な農林水産業の推進

3 広域連携プロジェクト（エリア版）

- 南丹地域スポーツ&ウェルネス&ニューライフ広域連携プロジェクト